大門だより

荒川区立大門小学校
校　長　神田　やよい
令和８年　１０月　３０日

大門小ホームページ　荒川区立大門小学校　検索

《本校の教育目標》　考える子　やさしい子　たくましい子

「　体験し、想像し、表現する ― 学びの広がり ― 」

校長　神田　やよい

秋も深まり、子供たちの学びが一層充実する季節となりました。10 月は、学校公開週間を中心に、普段の教室だけでは得られない多くの学びに恵まれました。

学校公開週間には、様々な分野からゲストティーチャー等をお招きしました。ダンスでは体で表現する楽しさを味わい、交通安全自転車教室では実践を通して安全な行動を学びました。また、移動式動物園では命の温もりに触れ、障害のある方々との交流学習では、多様な人々の思いや立場について考えを深めました。

こうした体験のよさは、知識を得るだけでなく、実際に見て、聞いて、触れて、感じることにあります。「なぜだろう」「もっと知りたい」という疑問や関心が芽生え、教室での学びが実社会と結び付いていきます。本物との出会いは、子供たちの世界を大きく広げてくれます。

また、10 月は読書月間でもあり、校長や委員会の児童による読み聞かせ、読書スタンプラリーなどに取り組みました。先日の全校朝会では、子供たちに「読書は想像力を鍛える」という話をしました。本を読むと、目の前にない景色を思い描いたり、登場人物の気持ちを考えたりします。このように想像する経験を重ねることは、日常生活にもつながります。例えば、「このまま走ったらどうなるだろう」と危険を予測したり、「こんなことを言われたら相手はどう感じるだろう」と友達の気持ちを考えたりする場面です。想像力は、自分の身を守り、人を思いやるためにも大切な力なのです。読書が得意な子も苦手な子も、読書月間をきっかけに一冊でも本を手に取り、物語や言葉の世界に親しんでほしいと願っています。









☆校長読み聞かせで読んだ絵本の表紙紹介☆

さて、11 月には学習発表会があります。学習発表会は、練習した成果を披露するだけの場ではありません。学んだことを自分なりに考え、工夫して表現し、友達と協力してつくり上げることに大きな意義があります。相手にどうすれば伝わるかを想像し、互いの考えを尊重しながら一つの目標に向かう。その過程こそが、子供たちの成長につながります。

体験を通して心を動かし、読書を通して想像を広げ、自分の言葉や動きで表現する。10 月に子供たちが見せてくれた姿を、これからの学校生活にもつなげていきたいと考えています。学校では、日々の授業や行事の中で、こうした学びの機会を大切にしてまいります。

学習発表会では、発表の出来栄えだけでなく、そこに至るまでの子供たちの努力や成長にも目を向け、温かい拍手をいただければ幸いです。